

第12章 近代国民国家の発展 2. ヨーロッパの再編 b. ドイツの統一(2)

④[1 1848]年ドイツ三月革命→[2 フランクフルト]国民議会開催(～49)

フランクフルト国民議会…[3 1848]年、ドイツ[4 三月]革命の革命的気運の高まりの中で開催されたドイツ最初の全国的議会。[5 ドイツ統一]の方法などについて論議された。しかしながら、[6 オーストリア]を中心とした統一をめざす[7 大ドイツ]主義(カトリック教徒が多い)と[8 プロイセン]を中心とし[9 オーストリア]を排除しようとする[10 プロテスタント]教徒中心の小ドイツ主義が対立、1849年、後者の立場で議論がまとまつたが、革命的機運の低下と[11 プロイセン]王のドイツ皇帝就任拒否により挫折した。

19世紀後半のドイツには、東部の[12 プロイセン][13 オーストリア]の二大強国と西部の弱小国家群が存在していた。19世紀初めの[14 ナポレオン]戦争はドイツ人の民族意識を高め、哲学者の[15 フィヒテ]は「ドイツ国民に告ぐ」という連続講演会を開催した。またウィーン体制下の1817年には大学生たちによる統一運動である[16 ブルシェンシャフ]運動が発生したが、鎮圧された。

最初にドイツの経済的統一が達成された。プロイセンを中心とした[17 ドイツ関税]同盟(1834)である。また1848年ドイツ[18 三月]革命のなかで[19 フランクフルト国民]議会(～49)が開催されドイツ統一が検討されたが、失敗におわった。

⑤[20 プロイセン]中心の統一運動=「上からの統一運動」

ア)宰相[21 ビスマルク]によってすすめられる(王[22 ヴィルヘルム1世])

イ) [23 鉄と血]の政策実施=議会の無視、24 軍備を拡張をすすめる

ウ) 1862 デンマーク戦争=シュウレスヴィヒ=ホルシュタイン地方の帰属をめぐり争う。

エ) 1866[25 プロイセンオーストリア]戦争→オーストリアをドイツ統一から排除

オ) 1867[26 北ドイツ]連邦結成=統一を前提とした連邦

カ) 1870～71 [27 プロイセンフランス]戦争=[28 ナポレオン3世]率いるフランスを破る

⑥[29 1871]年、ヴェルサイユ宮殿で[30 ドイツ帝国]成立を宣言(ドイツ統一)

⑦ドイツ統一の特徴…31 下からの統一を切り捨てたプロイセンによる上からの軍事的統一

三月革命の失敗で「下からの統一」が挫折する中、北東ドイツの強国[32 プロイセン]の国王[33 ヴィルヘルム一世]は宰相に[34 ビスマルク]を登用した。彼は[35 鉄と血]の政策をおしそすめ、議会を無視、軍備と重工業の充実をはかった。そして1862年[36 デンマーク]をやぶったのをかわきりに、1866年[37 プロイセンオーストリア]戦争でオーストリアを破り、ドイツ統一から排除、1867年には[38 北ドイツ連邦]を結成、1870～71年には[39 プロイセンフランス]戦争で[40 フランス]を破り、[41 1871]年[42 ドイツ帝国](第二帝国)が成立、ドイツ統一が実現した。

c. ドイツ帝国の成立とビスマルク外交

①オーストリア…ドイツから排除され、[43 オーストリアハンガリー]帝国と称する

マジャール人(=ハンガリー人)に自治権を与える

②ドイツ帝国(第2帝政)の特徴

統一したドイツはかつての領邦国家が独自の法、内閣、議会を持つ[44 連邦]制国家であったが、皇帝は[45 プロイセン]王の世襲とされるなど領邦の一つ[46 プロイセン]が他の領邦に対し圧倒的な権限を持っていました。皇帝に直接の責任を負う[47 帝国宰相]が大きな力を持ち、[48 二院]制にもとづく帝国議会はあったが無力である表面のみ近代的な政治にみせかけた[49 外見的立憲制]であった。

③ビスマルクの内政 「アメとムチ」の政策

1) [50 文化闘争]=南西部の[51 カトリック勢力]と争う→妥協

文化闘争…[52 プロテスタント]国プロイセンのドイツ支配に反対するドイツ南部の[53 カトリック]勢力が[54 中央]党を結成し、政府に反抗、ビスマルクが弾圧した事件。[55 社会主義者]の台頭に恐怖を抱いたビスマルクが妥協する。

2) 1878[56 社会主義者鎮圧法]を制定、社会主義勢力(社会民主党)を弾圧。

社会主義者鎮圧法…1875年成立したマルクス主義の影響の強い社会主義者労働党(のち[57 社会民主]党と改称)の台頭をおそれた[58 ビスマルク]が発した弾圧法。集会結社の自由を奪った。しかし社会主義の影響力は強く、1890年のこの法の廃止後、議会第一党に躍進する。

3) 社会保障の充実など=[59 アメとムチ]の政策=社会保険制度の充実・社会主義的政策の採用

4) [60 ユンカー地主]勢力と[61 資本主義]勢力の協力をはかる

→[62 保護貿易]政策への移行=重工業育成策へ

⑤ビスマルク外交の展開=[63 平和主義外交]への転換

1) 1873 三帝同盟(独、[64 ロシア]、[65 オーストリア])

2) 1878 [66 ベルリン]会議

(東方問題で対立するイギリス・フランス・オーストリアとロシアを仲介する)

3) 1882 三国同盟(ドイツ、オーストリア、[67 イタリア])

4) 1887 [68 独露再保障]条約締結

⑥ビスマルク外交の行き詰まり

→急速な工業化の進展→植民地獲得への要求が増大

